

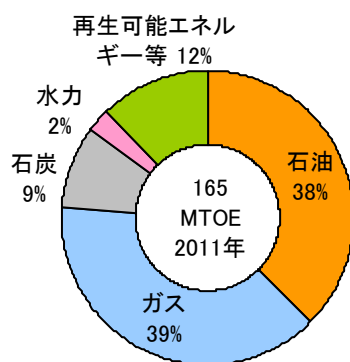
2-5 イタリア

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1)一次エネルギー供給量 (2011年) : 165 万 TOE (日本の 36%)
- (2)一人当たりの一次エネルギー供給量 (2011年) : 2.74TOE/人 (日本の 76%)
- (3)エネルギー自給率 (2011年) : 19%
- (4)エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 398.5 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 35%)
- (5)一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 6.59CO₂ 換算 ton (日本の 73%)
- (6)エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 原油 34.3 年、天然ガス 11.4 年、石炭 N/A

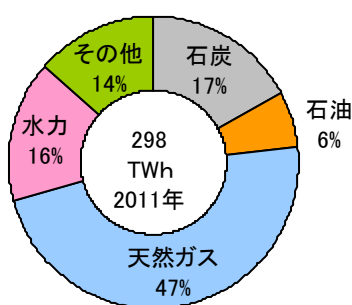
一次エネルギー供給構成 (2011年)



COUNTRY: Italy

(出所) IEA, Energy Balances of OECD Countries 2012

発電電力量構成 (2011年)



COUNTRY: Italy

(出所) IEA, Energy Balances of OECD Countries 2012

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- イタリアの主要なエネルギー政策担当機関は『経済振興省』。また、経済および財政の運営に関する合議機関として経済計画閣僚会議（CIPE）が設置され、エネルギー政策と経済政策の調整等を行なっている。

(2) 基本政策

- イタリアのエネルギーに関する基本政策は、国家エネルギー計画として公表されており、現行の第4次PEN（1991年施行）では①省エネルギーの促進、②環境の保全、③国内エネルギー資源の開発、④エネルギー資源の多様化、⑤エネルギー価格引き下げによる産業の競争力向上を5大目標としている。

(3) 最近の動向

- 原子力発電の再導入に関して、2009年9月、3~4ヶ所の発電所で合計12基の新規原子炉建設の計画が公表された。政府は導入目標として、原子力のシェアを2030年までに25%としていたが、2011年3月の福島第一原発事故を受けて反原発の気運が高まり、同年6月12、13日の二日に亘り国民投票が実施された。同月13日開票の結果、同国内務省の発表によると、投票率は投票成立の条件である50%超を上回る57%となり、うち95%が否決に回ったことから、原発再導入計画の撤回が決定した。
- 国内のエネルギー価格高騰を受けて、政府はこれまでのエネルギー戦略の見直しを進め、第4次エネルギー法（Quarto Cont Energia）を制定する方針で、主な内容は以下のとおりである。①沿岸から12km内における石油・ガス開発のための試掘禁止措置を緩和し、国内生産量の倍増を目指す。②再生可能エネルギーに関する補助金の削減、③欧州域内におけるガスパイプラインの集積地（ハブ化）となることを目指す、④エネルギー利用効率の向上と省エネの推進。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2010年4月、国際石油開発は、子会社のインペックスチモールシーを通じ、東ティモール民主共和国とオーストラリア連邦が共同管理する鉱区のKitan油田の開発計画について、共同管轄当局から承認を取得した。同鉱区の権益比率は、Eni:オペレータ 40%、インペックスチモールシー：35%、Talisman Energy：25%。Kitan油田は、2011年後半から生産開始予定で、2万b/dの生産量が期待されている。
- Sharpは2012年4月、Enel傘下のEnel Green Powerと共同で、イタリア国内の5箇所で出力合計14.4MWのメガソーラーの商業運転を開始した。両社は、今後も欧州・中東・アフリカを中心にメガソーラー事業を共同で推進していく方針。

2. 主要エネルギー指標

(2011年)

(1)	一次エネルギー供給量	165.1	百万 TOE
(2)	一人当たり一次エネルギー供給量	2.74	TOE/人
(3)	GDP 当たり一次エネルギー供給量	0.09	TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	18.8	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (2010年)	398.5	百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量 (2010年)	6.59	CO ₂ 換算 ton/人
(7)	一次エネルギー供給構成	石炭	9.2 %
		石油	37.5 %
		天然ガス	38.6 %
		原子力	0.0 %
		その他	14.7 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	81	%
(9)	石油の輸入依存度	91	%
(10)	輸入原油の中東依存度	29.7	%
(11)	原油輸入先 (2010年)	第1位	CIS
		第2位	リビア
		第3位	イラン

(出所) (1)~(4)、(7)~(9) は IEA, 「Energy Balances of OECD Countries」 2012 Edition、

(5)~(6) は IEA-「CO₂ Emissions from Fuel Combustion」 2012 Edition、

(10)~(11) は Blackwell-「World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」 September 2011